

◆ 三十一番(今井光子)

(登壇) 日本共産党の今井光子でございます。五名の議員団を代表して、知事及び農林部長に質問をいたします。

さきの参議院議員選挙の結果は、自民党、公明党の歴史的な大敗になりました。その原因は、格差と貧困の拡大を推し進めた構造改革路線と、美しい国と言いながら戦争を美化する政治に、ノーの審判が下されたところにあります。日本共産党は、格差と貧困をなくし、平和憲法を守る立場で質問をいたします。

まず、平和について、荒井知事に質問いたします。

知事が誕生して四カ月がたちました。さまざまに精力的な活動をされ、もっと長く就任されているような気がいたします。この間、荒井知事の奈良「新・都」構想や、定例記者会見などを読ませていただきました。そこには平和という言葉が見つかりません。知事は六月議会で山村議員の平和に関する質問に、文化交流を通じた人間の安全保障を推進していくとお答えになっておりますが、「国際文化観光・平和県」の知事として、平和に向けた県の具体的な取り組みについてどのように考えておられるのか、お聞かせください。

その際、一つの提案です。なら燈花会に平和の火を使って、平和を発信する場としてますます魅力ある催しにできないものでしょうか。平和の火とは、被爆直後、福岡県星野村の山本達夫さんが、おじを探しに行った広島で焼け瓦の火を懐炉で持ち帰り、その火を守り続けてきました。恨みの火がいつしか核兵器廃絶を願う平和の火になりました。二十年後、星野村役場の前に平和の塔が建てられ、そこにともされました。この火は日本全国をめぐり、ニューヨークの第三回国連軍縮会議にも届けられました。奈良県では一九八八年、般若寺に三千人の県民の募金による平和の塔が建てられ、平和の火が移されました。また、東大寺にも奉納されています。なら燈花会は、時期も八月六日、九日の広島、長崎の原爆投下や、日本の伝統的な行事お盆とも重なっています。世界遺産都市奈良から平和の大切さを発信し、それを世界遺産とともに後世に伝える意義あるイベントにしてはどうかと考えますが、いかがでしょうか。

◎知事（荒井正吾） （登壇）三十一番今井議員のご質問にお答えさせていただきます。

最初は、平和ということですが、知事として、平和に向けた県の具体的取り組みにどう考えているのかということですが。

奈良は、さきの大戦でも空襲のあまりなかった県でございます。それは、奈良に世界的な文化財が数多くあることを相手方がよく理解していたからだと聞いております。文化財は、国と国民を守る盾にもなり得ますし、平和を醸成する武器にもなり得る場合があると考えております。つまり、平和なとき、平和な地域でないと観光・文化の交流はできませんし、一方、そのような交流は平和を促進するということだと思っております。アジアにも交流によって地域の平和が揺るぎないものになりつつある時代になっていることを実感しております。本県におきましては、長年にわたり実施してきたことですが、国際的な文化交流と観光交流の拡大により、平和の醸成に努力をしております。そのような意味で、平城遷都一三〇〇年記念事業も国際交流を拡大し、平和の促進に寄与できるものと考えます。

ご質問いただいたなら燈花会は、NPO法人及び市民ボランティアによって運営され、ろうそくの炎に、来訪された人々のそれぞれの祈りや願いをかなえられたらとの思いを込めて開催されているものだと理解しております。県としても、なら燈花会の主催者のそのような趣旨や思いを尊重し、より多くの人々の支持、共感を得ることができる催しとして発展するように支援をしていきたいというふうに考えております。